

【Embedded Technology 2016 スペシャルセッション】

派生開発問題解決セミナー2016

派生開発でアジャイルに対応するために何が必要か

XDDPを活用して

派生開発をアジャイルに取り組む方法を

議論しよう

パネルディスカッション

前川 直也氏 + AFFORDD アジャイル研究会

2016/11/18

パネルメンバーのご紹介



前川 直也氏

株式会社日新システムズ

パネルメンバーのご紹介

AFFORDD T06アジャイル研究会



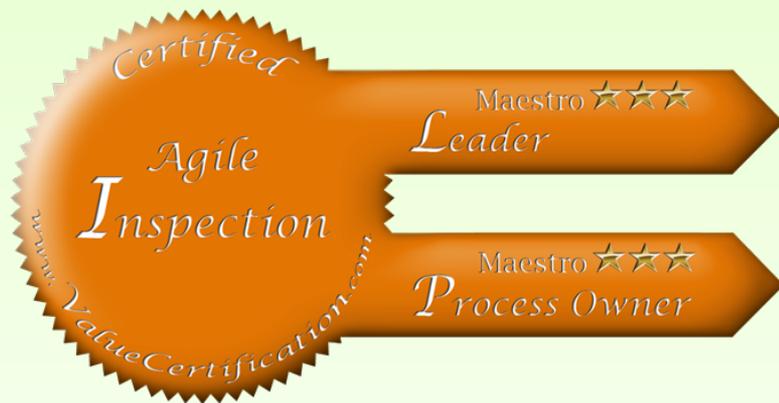
星野 充史氏
アンリツエンジニアリング株式会社



八木 将計氏
株式会社日立製作所

モデレータ

AFFORDD T06アジャイル研究会



アジャイルインスペクション
アジャイルRCA
DevQA

永田 敦
ソニー株式会社



パネルディスカッションのお題

**XDDPで
派生開発をアジャイルに
開発することは
可能か？**

IoTで勝つためには

新しいアイデア = **価値**で**速く**市場を押させる

セキュリティ障害は起こさない！

品質は妥協できない！

システムサービス！

システムとの協業
他社との協業

仕様
変わる
決まらない

IoT時代におけるXDDPとアジャイル開発の融合の必要性

IoT ハードをまずインストール



IoTの価値をインクリメンタルに上げていく

開発



アジャイル
フレームワーク



派生開発

パネルのアプローチ

3つの質問

Iteration 1 : 派生開発をアジャイルで行うときのリスクは

Iteration 2 : XDDPはアジャイル開発と相容れるか

Iteration 3 : XDDPで派生開発をアジャイルに開発することは
可能か？

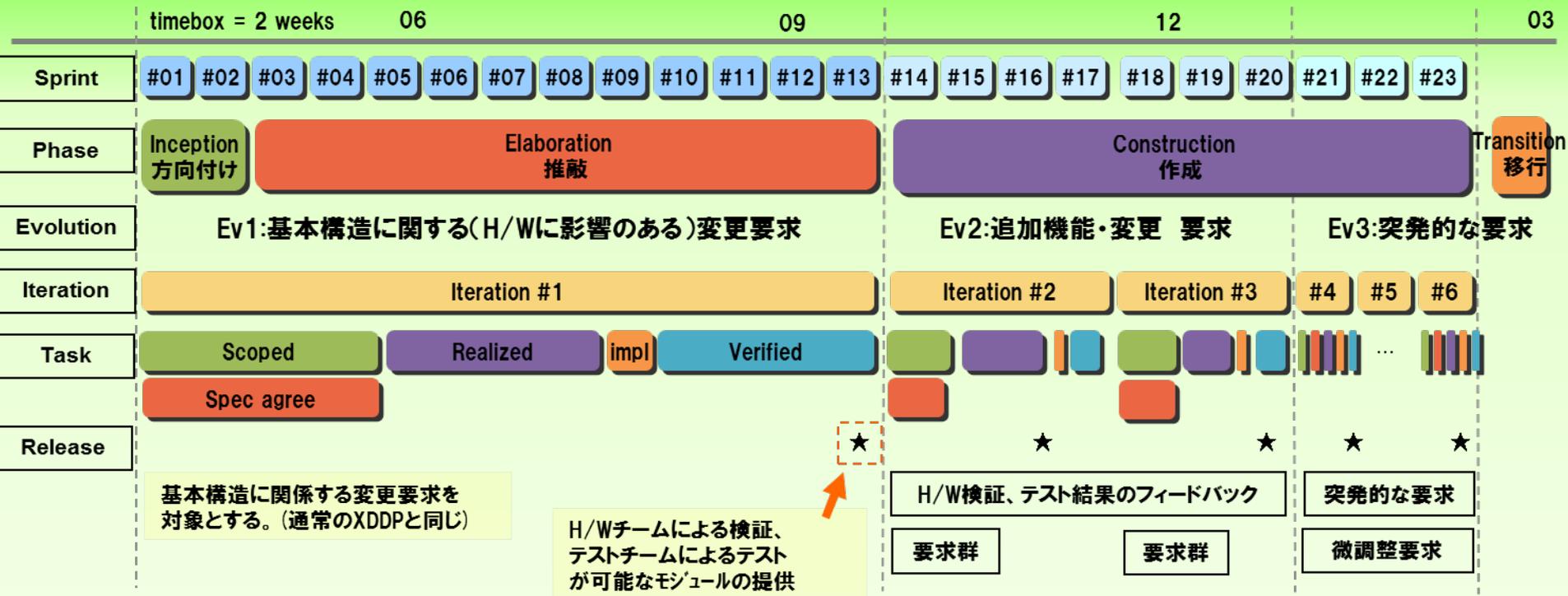
Iteration 1 : 派生開発をアジャイルで行うときのリスクは

- ドキュメントを書かない
 - チョイ変なので書く必要を感じない
 - Beforeが表現されない
- 変更の影響の考慮 = 本来はバックログの終了条件
 - アジャイルのフレームワークでは、どのように影響の考慮するかは規定されていない
 - デグレのリスク
- ハードとソフトの齟齬
- コードが大きくなっていく

Iteration 2 : XDDPはアジャイル開発と相容れるか

- 2011年のAffordカンファレンスの事例
 - XDDPとSCRUMのハイブリッドな開発事例
- 当初の印象: XDDPはアジャイル開発とはいえない
 - プロセスの最後までコードをいじらない
 - 変更要求による“動くもの”はプロセスの最後にならないとデリバリーできない
 - アジャイル開発の柱である、連続して顧客に動くものをデリバリーをしてフィードバックを得て、本当に価値のあるものを提供するという考えと違っている
- XDDPとアジャイルの融合は難しい
 - T06研究会の課題

XDDPにSCRUMを適用した例:2011



<主な実行タスク>

Scoped	要求分析シート、スペックアウトドキュメント、第1層TM(列粒度:ブロック)、初期見積もり
Spec Agreed	変更要求仕様書、追加機能要求仕様書、第3層TM(列粒度:ファイル)、上記ドキュメントのレビュー、調整見積もり①
Realized	変更設計書、関数設計書、上記ドキュメントのレビュー、調整見積もり②
Impl	コーディング
Verified	単体テスト、結合テスト

要求群間の依存関係が低くなるように括りを工夫する。(パイロットプロジェクトで行った形式:ユーザーケース単位の括り)

プロジェクト終盤には、微調整要求やデモ要求等の突発的な要求が発生しがちなので、iteration回数を増やす。

派生開発における継続的改善
ソニーイーエムシーエス(株) 勝又 淳
ADDORDD Conference 2011 ibbbbb

Iteration 3

XDDPで

**派生開発をアジャイルに開発することは
可能か？**

実現するための課題と目論見

ヒント 1

「XDDP」では、ソースコードを最後に変更することは必須ではない

ソースコード自身の事情による

ソースコードに“秩序”があれば、最後まで変更を遅らせる必要はない



XDDPの「変更3点セット」がこれを可能にする

パネルの成果

課題：ソースコードの秩序をどう見極めるか



**秩序をまとめるように
スコープをうまく切る**



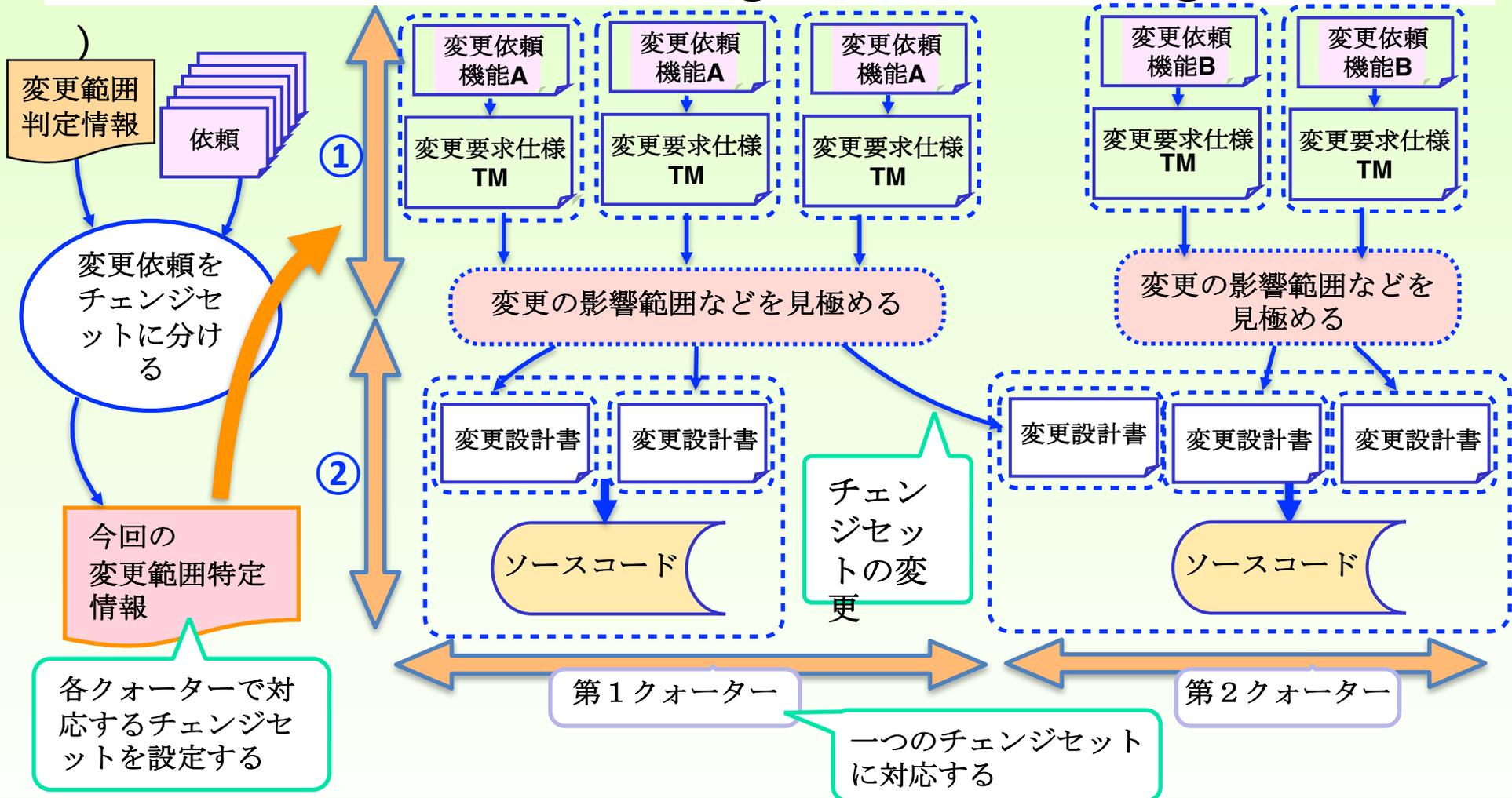
ユーザー価値でスコープを切る



そのスコープごとにXDDPを回す

XDDPで派生開発をアジャイルに行うイメージ

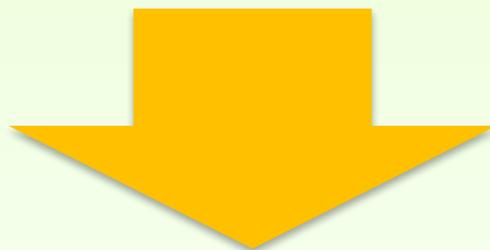
- 「変更」にスクラムを応用 (①ファーストダウン/②タッチダウン)



Agile XDDPの開発：T06の今後の課題

チェンジセットとユーザー価値スコープ

“ソースコードの秩序”



秩序を保ちながら、ユーザ価値毎に
デリバリーできるXDDPを考える

以上